

おちんちん擦り付けても許してくれる、  
不機嫌ダウンナーロリオナホメイドちゃん  
トラック1…プロローグ

【位置…正面斜め右耳側30センチ】

分かったわ。ここに座れば良いのね。

SE…座る

【位置…正面30センチ】

…それで。  
何か御用かしら。ご主人様。

お説教って、何の事？  
私は別に、怒られるようなことをした覚えは無いわ。

……はあ。（溜息）成程。

つまりご主人様は、  
私の最近のメイド姿がえっち過ぎることに、怒っているのね。  
そうね。

確かに最近の私は、  
たけが15センチしかない超絶ミニスカートで、  
丸出しのおパンツとお尻をフリフリしながら、  
メイドの仕事をしていたわね。  
えっち過ぎると言われれば、そうかもしれないわ。

でも……。

このことで怒られるのは、少々心外よ。

私がこうして、

ぷりぷりの桃尻を丸出しにしてメイドの業務をしているのは、  
他でもないご主人様のせいだもの。

…ええ。

というのもご主人様。

あなたには女性への耐性というモノが、全く無いでしょう？

仕事で女の人と打ち合わせをする姿、何度か見て来たけれど、  
だいたい挙動不審になったり、  
普段より声が高くなったりしているわよね。

いいえ。そんなことあるわよ。

間違いなくご主人様の女性耐性は、クソ雑魚の部類だわ。  
しっかり自覚して頂戴。

…それで。

私はその、ご主人様のザコ過ぎる女性免疫を、結構危惧しているの。  
あなたが悪い女にハマられて、破産でもしてしまえば、  
私も行く場所がなくなってしまうし、他人事ではないでしょう？

そこでなんとかご主人様に、

女性への免疫を付けてもらおうと考えた結果が、  
このお尻丸出しのえっちなメイド服よ。

私がこうして、日ごろからエッチな格好でメイドの業務をすれば、  
それを見ているご主人様も、

流石に女性への耐性がつくだらうって、そう考えたの。

…まあ。そういう訳だから。  
この恰好は全て、ご主人様のせい、  
あなたに私を怒る権利は無いわ。

というか私だってこんな恰好、したくは無いわよ。

ご主人様とはいえ、好きでもない男性の前で、

お尻丸出しのメイド服なんて、ホント、死にたくなってくるわ。

はやくその、童貞っぽい女性との接し方をどうにかして、

可愛そうなメイドの私に、普通の恰好をさせて頂戴ね。まったく…。

…で。これで話は終わりかしら。

【位置…次の行、正面斜め右耳側30センチへ移動しながら】

じゃあ引き続き、

幼くてかわいいつるつるのお尻をフリフリしながら、

私はメイドの業務を行うわね。

ご主人様もお仕事、頑張って頂戴。

【位置…次の行、そのまま正面斜め右耳側50センチまで  
遠ざかりながら】

ふりふり。ふりふり……。

……あ。そうだわ。

ねえご主人様。

せっかく懇切丁寧に、この服装の理由を説明したことだし、  
今日は私、さらにえっちな恰好をしようと思うの。

ええ。

よりえっちな姿をした私を眺めた方が、

ご主人様の女性への耐性も、つきやすいでしょう？

【位置…次のセリ、正面30センチへ移動しながら】

というコトだから、ご主人様。

この黒のマジックで、

私のお尻に正しいの文字を書いてもらえるかしら。

そう。

漫画などでよくある、中出し回数をカウントする落書きよ。

お尻にそういうのが書かれていた方が、よりえっちだと思っの。

【位置…その場で後ろを向いて】

(→収録で実際の音を聞いて、

可聴性によっては指示を変えるかもしれない。)

ほら。ご主人様の方に背を向けて、

書きやすいようにお尻のお肉を、ぐーっと広げるわ。

…どうぞ。

私のお尻にマジックで、落書きして頂戴。ご主人様。

…どうしたの？

はやく書いてもらえる？

この体勢、少しキツイし。

好きでもない男性にお尻をむけて広げている現状も不快で、早く終わらせたいわ。

SE…マジックで書く

んっ……。そうよ。

私のつるつるのお尻に見合うよう、

丁寧に書いて頂戴。ご主人様。

あと……。正しいの文字だけじゃなく、おまんこに矢印を引っ張って、「ご主人様専用」とか、そういう言葉も、描いてもらって構わないわ。

私はまったく、ご主人様の女になるつもりはないけれど、その方がエッチで、

ご主人様の女性耐性向上に寄与するでしょうから、仕方なく許可してあげる。

ん……。書き終わった？

じゃあ今日はこのまま、

ご主人様にいっぱい中出しされた後のような、卑猥な落書きいっぱいのお尻を丸出しにしながら、家事をするわね。

二桁以上の中出しカウントも、ご主人様専用おまんこなんて文字列も、私としては本当に不本意だけど。

情けないご主人様の為、羞恥を収めて頑張るわ。

ん？

はあ……。 (溜息)

いいえ。誘ってないわよ。

ホント、童貞らしい気持ち悪い発想をするわね。

：何度も言うけれど、

私、ご主人様の事は、まったく好きではないの。

身寄りのない私を拾ってくれた事に多少は感謝してるし、

私自身の生活の為に、

あなたが仕事で失敗しないよう尽力するけれど、それだけ。

勘違いして押し倒して来た場合、包丁で刺すから。ご主人様。

トラック2…ロリおまんこ公開おなにー

SE…ノック音

【位置…正面斜め右耳側50センチ】

……ご主人様、入るわよ。

SE…入る

【位置…正面斜め右耳側30センチ】

……ん。

まだ仕事をしていたのね。

少し時間のかかる要件で伺ったのだけど、改めた方がいいかしら。

そう？

それなら遠慮なく、話すわね。

【位置…正面30センチ】

えっと……。

端的に言っていると私は、あなたの女性耐性が、  
相変わらず低すぎるといってお話を、しにきたの。

ええ。

ご主人様、今日の昼間に取引先の女性と、  
通話をしていただけでしょうか？

それでその時、随分デレデレとした、  
気持ちの悪い態度を取っていたわよね。

ゆるんだ顔で、下心丸出しの童貞トーク。

横目で見ていたけれど、あまりにも見るに堪えない光景で、  
私はとても情けなくなっただの。

いいえ。そんなことある。  
客観的に見ていた私が言うのだから、間違いないわ。

…まったく。

せっかく私が、日ごろからえっちな格好をして、  
ご主人様の女性免疫獲得にむけて勤しんでいるというのに、  
露ほども成長が見られないなんて、悲しくなってしまうわ。

……ん。

…そう。

デレデレしていたわけではなく、単に仲がいいだけなの？

ああ、そういえば言っていたわね。

数年前起業したとき、お世話になった人がいるって。  
その女性が、今日の通話相手だったのね。成程……。

…いいえ。

だとしてもやはり、今日の通話は童貞っぽさ全開だったわ。  
やはりご主人様は、  
女性を前にすると変に声が上がって、気持ち悪くなるの。  
とにかく相変わらず、  
あなたには女性への耐性がまったく足りてないわ。

……さて。そこで、ね。

今からご主人様には、私のオナニーを見てもらおうと思うの。

そう。オナニーよ。

エッチな服装で業務をするメイドを眺めているだけでは、  
ご主人様の女性への免疫は、遅々として上がらないようだから。  
もっとエッチな劇薬……。

女の子の生オナニーを、ご主人様に披露するべきだと、  
私は考えたのよ。

やめた方が、なんて。  
よく言えたものだわ。

私だって別に、好きでもないあなたの前で、  
大事なつるつるおまんこを晒してオナニーなんて、  
本当にしたくないの。

けれど、ご主人様が枕営業に引っかかって、  
質の悪い取引先とダラダラ関係を持ち没落すれば、  
メイドの私は路頭に迷ってしまうでしょう？

だから不承不承（ふしょうぶしょう）、最低な気分で、  
ご主人様にオナニーを晒すことを決意したのよ。

私達はいつ悪い女にハマられるか分からない崖っぷちで、  
甘えたことは言っていられないの。分かるわよね。

ほら。はやく机の上をあけて頂戴。

おまんこが見やすいよう、その上でオナニーをするから。  
椅子に座って至近距離で、  
しっかり私のおまんこ、見学するのよ。ご主人様。

【位置…正面15センチ、胸元辺りにマイクが来る高さ】

ん、しょ……。

SE…机の上に座る

……じゃあ。まずはパンツを脱ぐわね。

んっ……。ふう……。

SE…パンツを脱ぐ

…はい。ご主人様。

これが今日の、私のおぱんつよ。  
黒色で紐のような、エッチなおぱんちゅ。

…とはいえ、

お尻丸見えの短すぎるスカートで、今日も業務をしていたから。  
わざわざ改めて見せる必要は無かったかしら。

それじゃあ…。その……。

足を広げて、M字開脚して。

パイパンロリおまんこ、見せるわね。ご主人様。

SE…足を開く

すうー…。ふうー…。(呼吸一回)

…だめよ。恥ずかしがらず、ちゃんと見て頂戴。

まだ毛が生えていない、私のつるつるのおまた……  
この一本の割れ目を、しっかり観察するの。

……今からくぱあゝって、開くから……。

ん……。

くぱあゝ……。

どう？ご主人様。

これが私の、おまんこよ。

綺麗なピンク色の、おちんちんを入れる小さな穴。  
処女膜まで、しっかり見える？

はあ……。(溜息)

息、あらいわよ。ご主人様。

まだまだ幼くて、  
赤ちゃんも作れないパイパンロリおまんこだけど、  
女性耐性ゼロのあなたにとっては、  
十分すぎるほどえっちな光景なのね。

じゃあ、そのまま見てて。ご主人様。

……今からこのおまんこで、オナニー…するから。

ほら。割れ目を指で、上下になぞって……。

【演技…ここから少し息荒め。

まだ、あまり激しくは喘がないで下さい。】

んっ……。あっ……。あっ……。ふう……。

はあ……。んっ……。んあっ……。あっ……。

まったく、改めて最悪の気分だわ。

んっ……。はあ……。

好きでもない男性の前で、おまんこを突き出し……。

んっ……。ふう……。

一人エッチを、じっくり見せつけるだなんて……。

はあ……。はあ……。んっ……。はあ……。

……分かっていると思うけど。

んっ……。ふう……。

年端も行かない少女に、公開オナニーさせるなんて、  
んっ……。あっ……。

絶対ダメなことなのよ……？

あっ……。んっ……。はあ……。はあ……。

……けれど、ご主人様があまりに不甲斐ないから、

んっ…。ふう…。

メイドである私は、こんな辱めを、受けなざるを得ないわけで…。  
はあ…。はあ…。

諸々含めて、反省してね。ご主人様。  
んっ…。んあっ…。ふう…。はあ…。

…そして、私のロリおまんこが、  
あっ…。んっ…。

オナニーでぐちゅぐちゅになっていくのを眺めて…。  
んっ…。あっ…。はあ…。ふう…。

女性への免疫、つけて頂戴。

はあ…。はあ…。んっ…。ふう…。  
んっ…。ふう…。はあ…。あっ…。

じゃあ、オナニーの解説を、するわ。

んっ…。はあ…。あっ…。んっ…。

好きでもないあなたに、

私のおまんこを気持ちよくする方法、なんて。

んっ…。ふう…。

絶対に教えたく、無いのだけど…。

はあ…。はあ…。

その方が、女性への理解が、深まるでしょうし…。

んっ…。あっ…。

仕方なく、私自ら、解説するわね…。

んっ…。ふう…。はあ…。んっ…。

私の、月野奈々の、オナニーはね。

んっ…。ふう…。

まず、こんな風に…。んっ…。あっ…。

ふにふにの割れ目を、指で何度もなぞるところから、始まるの…。  
あっ…。んっ…。ふう…。はあ…。

これをするよね。はあ……。あつ……。  
見ての通り、どんどんおまたから、  
えっちなおつゆがあふれて来て……。はあ……。はあ……。  
体が熱く、なっついていくのよ……。  
んっ、あつ……。ふう……。はあ……。

それで、程よく頭が、ぼーっとして来たら、  
んっ……。あつ……。  
次はクリトリスをつまんで、くにくにするの。

【ここから激しめに喘ぐ】

ほら。くにくに……。くにくにつ……。  
んあつ！ あつ……。んっ……。んんっ！！

SE…足を閉じる。

【喘ぐの中断。少し息を整えながら次の3行】

ふうー……。はあ……。  
…ごめんなさい。足、開くわ。  
感じ過ぎて、閉じてしまったけど、もう一度、お股見せるわね。

SE…足を開く

【オナニー再開。またここから激しめに喘ぐ】

んっ。あつ。ふう。はあ……。  
あつ、んっ……。はあ、ふう……。  
こんな風にね。んっ……。あつ……。  
指で割れ目をなぞって高まった状態で、んっ……。ふう……。  
クリを弄れば……。

んっ、あっ……。はあ……。ふう……。  
私のおまんこ、とっても気持ちよく、なるの……。  
あっ、んっ。ふう……。はあ……。

気持ちよくなって……。あっ……。んっ……。  
すぐ、絶頂……。するのよ。  
んっ、んあっ……。ふう……。はあ……。

見て、ご主人様。  
んっ……。あっ……。

もう片方の手で、くばあって、  
はあ……。はあ。おまんこの穴、見せるわ。  
あっ……。んっ。ふう。はあ……。

くばあ……。んっ……。あっ。

……。どう？

はあ……。はあ……。  
クリオナで、気持ちよくなって。んっ、あっ。

くぱくぱきゅんきゅん、穴の中が痙攣しているの、見えるかしら。  
はあ……。はあ……。

ここにおちんちん入れたら、とっても気持ちよさそでしょう？  
んあっ、あっ……。ふう……。はあ……。

……。想像して良いわよ。ご主人様。

んっ……。あっ……。

この、未発達でピンク色の。

あっ……。んあっ……。

私のキツキツおまんこに、おちんちん包み込まれる感覚……。  
んっ……。ふう……。

【次のセリフ、右耳側0センチへ移動しながら】

ふう……。はあ……。んっ……。あっ……。

【ここから囁き（有声音）】

少女の高めの体温を、おちんちんで、感じながら。  
んっ……。ふう……。

ぎゅーっと。

ちっちゃなキツキツぷに穴に、締め付けられたら……。  
んっ、あっ……。ふう……。んっ……。

きつとご主人様の、弱いおちんちんは、  
んっ、あんっ……。

簡単にびゅっびゅっ。してしまうわよね。

【囁き終了】

【位置…次の喘ぎで、また正面15センチ、  
胸元辺りにマイクが来る高さへ移動】

はあ……。はあ……。あっ……。ふう……。

ほら。

私のちっちゃな、おちんちん入れる穴、  
んっ……。ふう……。前に突き出して、精いっぱい見せつけるわ。  
あっ……。んっ……。はあ……。はあ……。

くぱくぱ、きゅんきゅん、  
クリオナでおまんこ痙攣してるのを眺めて、  
んっ……。ふう……。

おちんちん入れる妄想、沢山していいわよ。ご主人様……。  
んっ……。んあっ……。はあ……。ふう……。  
んっ、んっ、はあ……。あっ……。

はあ……。(ため息)  
やっぱり、最悪だわ。  
んっ……。ふう……。

ご主人様なんかには、クリを弄りながら、おまんこを広げて見せて。  
んっ……。あっ……。  
えっちな穴がくぱくぱしているところを、  
んっ……。ふう……。

奥の奥まで、見られるなんて……。  
はあ……。あっ……。ふう……。あっ……。

それに、この喘ぎ声だって……。  
ふう……。んっ……。

好きな人にだけ、聞かせる予定だったのよ？  
あっ……。んっ……。んあっ……。ふう……。

私の大切なもの、こんなにあなたに捧げて。  
んっ……。ふう……。

まったく、尊厳破壊もいいところだわ。  
んっ、あっ、はあ……。はあ……。

ご主人様。んっ、んあっ……。  
ここまでしたのだから、  
ちゃんと女性への耐性、つけなきゃダメよ？

んっ……。あっ……。はあ……。あっ……。  
こんな。小さな女の子に。  
ふう……。あっ……。

ぱいぱんおまんこの、オナニー発表会、させておいて。  
んっ……。あっ……。はあ……。ふう……。  
成果なしでは、許されないから。  
んっ……。ふう……。あっ……。ふう……。

あっ……うっ……。ご主人様。

んっ、あっ。  
あの……。そろそろ。  
そろそろ私、イっちゃいます。  
はあ、はあ、あっ……。ふう。

おまた弄って絶頂する、女の子としてとっても恥ずかしい姿。  
んっ……。ふう……。  
好きでもない男性に、ご主人様に、  
んっ……。あっ……。  
至近距離で、披露するの。  
あっ……。んっ……。ふう……。はあ……。

あっ、ダメ。もう、イク……。  
んっ、あっ、はあ、はあ、  
んっ、んっ、あっ、あっ、  
ご主人様っ、ご主人様っ。  
だめ、だめ、いく、いく。  
イツ……。クツ……。！！（絶頂）  
んっ……。あっ……。

【次の呼吸で息を少し整える】

はあ……。はあ……。はあ……。はあ……。  
はあ……。はあ……。ふう……。はあ……。

【まだ若干息が乱れた状態でセリフ】

…いったわ。ご主人様。

でもまだ、私のおまんこ、見ていて頂戴。

くばあって、ずっとしているから。  
イツた直後の、

ひくひくしてる、つるつるロリおまんこ。  
沢山見るといいわ。

はあ…。ふう。はあ…。ふう。

【次の深呼吸2回で、完全に息を整える】

すうー…。はあー…。

すうー…。はあー…。(呼吸音2回)

ん…。またそれ？

だから、誘ってないわ。

どうして童貞は、そんな勘違いをするのかしら？

いい？

本当は私、今すぐおまんこを隠して、

お布団の中で泣き出したい気分なのよ？

まだまだ私の人生は長いのに、

好きでもない人におまんこ見せつけて、

公開オナニーをしてしまうだなんて。

心に深い傷を負ってしまったもの。

全ては誘っている訳では無く、

いやな気持ち押し殺して、泣きながらやったこと。

情けないご主人様が、ハニトラに引っかけられないように、ね。  
くれぐれも、変な解釈をしない欲しいわ。全くもう…。

トラック3…へこへこ太ももコキ添い寝

SE…ノック音

【位置…正面斜め右耳側50センチ】

失礼するわ。ご主人様。

【位置…正面斜め右耳側30センチ】

いえ。起き上がらなくて結構よ。  
そのままベットの中にいて頂戴。

ええ。

じゃあお布団の中、失礼するわ。

【位置…次のセリフ、

正面5センチから左耳側0センチへ移動しながら】

ぎゅーーーう。

【ここから囁き（有声音）】

ん…。

そんなに驚かないで貰える？  
相変わらずご主人様、童貞全開ね。

別に、添い寝をしに来ただけよ。

先日私に公開オナニーまでさせたのに、  
いまだに改善が見られないあなたの女性への免疫。  
それに対する次の施策として、今夜ご主人様には、  
こうして私と抱き合った状態で、眠ってもらうわ。

好きでもない男性と夜通し抱きしめ合うだなんて、  
私としては本当に本当にやりたくないのだけど…。  
このままではあなた、いつハニトラ倒産するか分からないから。  
泣く泣く仕方なく不本意ながら、密着添い寝、しに来たのよ。

それに今度、例のご主人様がお世話になったと言う女性と、  
久々に会って打ち合わせをするのでしよう？  
その時相手に幻滅されないためにも、  
急いで女性に、慣れないとだわ。

ほら。ご主人様からも抱きしめて頂戴。  
柔らかくていい匂いのする女の子の体、  
沢山感じて、女の子をお勉強しましょう？

SE…抱きしめる

ん……。なにかしら。

…そうよ。今の私は、黒くてスケスケの、下着姿。  
あなたに女の子を教えるため、  
ほとんど裸同然の恰好を、してきたの。

はあ…。(溜息)

指摘されるとさらに惨めな気持ちになるわね。  
オナニーをみられただけでも、私の尊厳はもうボロボロなのに。  
次はこうして、裸んぼにえっちな飾りつけをした状態で、  
あなたにおっぱいやおまたを押し付けて、  
一晩中私の裸の感触を堪能させなければいけないだなんて……。  
ご主人様に女性耐性が付く前に、私の心が死んでしまうわ。

……じゃあ。もうあまり話したくも無いし。  
さっさと寝ましょう、ご主人様。

ええ。おやすみなさい。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。 (寝息4回)

ん……。

あの、ご主人様。

私の太ももにおちんちんを擦り付けてくるの、  
やめてもらえる？

先程からずっと、へこへこ、へこへこ……。  
勃起したおちんちんの感触、非常に不快だわ。

なに？ 腰が勝手に動く？

私と抱き合うの興奮しすぎて、我慢しようとしても、  
どうしてもへこへこ、おちんちん擦り付けてしまうの？

はあ……。 (溜息)

…最低ね。ホント。

…まったく。あなたに女性への免疫が無い事は、  
十分理解していたつもりだったのだけど、  
どうやら私の認識が甘かったようだわ。

女の子と密着するだけで理性が崩壊して、  
そんな性衝動すら抑えられないだなんて。  
もはや獣という他ないわね。ご主人様。

…ねえ。私今、とっても辛いなのよ？

好きでもない男性と抱き合っているだけでも、嫌で嫌で逃げ出したいくらいなのに、さらに太ももを、

おちんちん気持ちよくなるオナホとして使われて。

私、夜通し密着する覚悟はしていても。

体を性処理道具として使われる覚悟はしてないし、本当にストレスなのだけど……。

そんなに私の心を傷つけてなお、最低なおちんちんへこへこ、続けるのかしら？

…いいえ。

へこへこしているのはあなただけよ。

私から太ももを擦り付けたりなんて、してないわ。

何かと思えばそうやって、言い訳ばかりして。

そんなだからいつまで経っても、女性との接し方が成長しなのよ？

まずは一言、ごめんと謝る気はないの？ ご主人様。

ええ。そうね。ごめんなさいね。

まあ謝られても、依然としてへこへこされっぱなしで、私の心は痛んだままなのだけど……。

いいえ、だから私からは、擦り付けたりしてないわ。まったく。はあ……。 (溜息)

【囁き終了】

【位置・次のセリフで正面30センチへ移動】

じゃあご主人様。

ズボンを脱いで、その勃起したおちんちん、出して頂戴。

…いえ。

このままその、情けない発情行動を続けられても、お互いに眠れないし。

それならいっそ、

もっとしっかり私の太ももおちんちん擦り付けて、射精して貰おうかと思って。

本当は理性でへこへこを辞めて、眠りについて欲しいのだけど、それは叶いそうにないから、致し方なしだわ。

可愛そうなロリメイドの太もも、オナホとして提供してあげる。

その代わりに、コレを通してしっかり女性への免疫、獲得しなきゃダメよ？

ほら。早く脱いで。ご主人様。

SE…ズボンを脱ぐ

ん…。

そう。これがご主人様の、おちんちんなのね……。

いえ。特に何か言う気は無いわ。

しいて言うなら、

「こんなに大きくして最低ね」と、そんなところかしら。

じゃあまた、私の体を抱きしめて、

太ももにへこへこ、このおちんちん擦り付けるといいわ。

【位置…左耳側0センチ】

【ここから囁き（有声音）】

ほらどうぞ。ご主人様。

へこへこ…。へこへこ…。

すうー……。ふうー……。(呼吸音一回)

……。はあ……。(溜息)

…なんとというか。

始めたはいいけれど、この上なく不快ね。

太ももに伝わってくる、生のおちんちんの感触……

熱くて、硬くて、カウパーもぐちゅぐちゅで。

今私の体は、ご主人様の性処理に使われているんだと、嫌でも自覚してしまうわ。

楽しい？ へこへこ腰振り。

ご主人様に献身せざるをえない小さなロリメイドに、おちんちん擦り付けてイジメるの、興奮する？

…聴くまでもなさそうね。

犬の様にハアハアと、息を荒げているし…。

気持ちいいわね。

小さな女の子の、細くてぶにぶにの太もも。

未発達で筋肉がまだついてないから、

本当に柔らかくて、おちんちんをぶにつと包み込んで……。

性処理には最適な、太ももぶに穴おまんこね。

へこへこ。へこへこ。

へこへこ。へこへこ…。

その幸せそうならしない顔。

見てるだけで殴りたくなってくるわ。

…いい？ ご主人様。

もしかしたらまた勘違いしているかもしれないから、再三言うけど。

本当に私は、こんな事したくないのよ？

あなたのこと、全く好きでは無いし、

太ももを性処理に使われるのも、超が付くほど不本意なの。

これは全て、ご主人様が悪い女性にたぶらかされ、私の生活基盤が崩れるのを防ぐために、仕方なくやっていること。最低で情けないご主人様が、私にさせていること。なのよ。

絶対に誤解しないでね。

襲ってきたら私、あなたに熱湯をぶっかけるから。

すう…。ふう…。

すう…。ふう…。(呼吸音2回)

それで。まだ射精しないの？  
どうせならさっさと射精して、  
この地獄のような時間を終わらせて欲しいのだけど。

はあ…。(溜息)

仕方ないわね。

それなら私のお尻、揉んでもいいわよ。

いえ。本当は揉まれたくないけれど、

そうすれば興奮して、多少は射精、近くなるでしょう？

ほら。ぷりぷりの小さな桃尻を、ご自由にどうぞ。ご主人様。

【次の一行、お尻を揉まれて一瞬喘ぎますが、  
すぐに平静を取り戻してセリフ】

んっ、あっ…。

…。ふう…。

あーあ。

好きでもない男性に、私のお尻、揉まれてしまったわ。

すべすべで柔らかい、マシユマロのようなお尻を驚づかみにされて……。本当に今の私、ご主人様の性処理オナホなのね。

…どう？

お尻を揉みながら、膨らみかけの小さなおっぱいと密着して、太ももにおちんちんへこへこ……。お射精、できそうかしら。

…じゃあ。さっさと射精して頂戴。

もっと激しく、おちんちん擦り付けていいから。

へこへこ。へこへこ。

へこへこ。へこへこ。

ん……。なあに？

…は？

へこへこを応援して欲しい……？

【囁き終了】

【位置・正面5センチ】

あの……。ご主人様。

なあに？ その要求は。

気持ち悪いを通り越して、理解が出来ないのだけど。

はあ……。

そうすれば、おチンポミルクどびゅどびゅ出来ると……。

……調子に乗ってる？

…。

はあ……（溜息）

いえ。良いわよ。

それでお射精できるというなら、やってあげる。

ご主人様らしい、情けなくて恥ずかしい性癖ね。ホント。

**【位置…次のセリフで左耳側のセンチへ移動】**

じゃあ……。応援するわね。

すうー……。ふうー……。（深呼吸。息を吐くときは少し溜息っぽく）

**【ここから囁き（有声音）】**

**【ここから、甘く媚びるような感じで】**

へこへこ頑張って。ご主人様。

私、ご主人様がへこへこを頑張ってる姿。大好きなの。

だからいっぱい腰を振って、そのかっこいいへこへこで、

私の太ももまんこ、犯して欲しいわ。

へこへこ頑張れ。へこへこ頑張れ。

へこへこ頑張れ。へこへこ頑張れ。

フレ、フレ。へこ、へこ。

フレ、フレ。へこ、へこ。

**【演技もとこ】**

**【ここから無声音】**

…はあ。（溜息）

……これで良い？ ご主人様。

うわ。本当に興奮してるのね。  
こんな行為のどこが嬉しいのやら…。

ん…。もうすぐ射精できそう？  
はいはい。分かったわ。

じゃあ最後まで応援するから、  
さっさと出して、この拷問を終わらせて頂戴。

【ここからまた有声音】

【ここから、甘く媚びるような感じで】

さあ。最後まで頑張って。ご主人様。  
いっぱいへこへこして、  
私の太ももにびゅーびゅーどびゅどびゅ。  
おちんぽミルクぶっかけましょう？

ええ。もう限界ね。出ちゃうわね。  
ご主人様のかっこいい腰へこで、  
私の太ももおまんこに、中出し種付け、しちゃうわね。  
頑張れ頑張れご主人様。  
頑張れ頑張れおちんちんさん。

フレ、フレ、出せ、出せ。  
へこ、へこ、だせ、だせ。  
はい。お射精どうぞ。

びゅー。びゅー。びゅーー。  
びゅるるー。びゅるるるー。  
どくどく。びゅくびゅく。  
ぴゅっ。ぴゅっ。ぴゅっ…。

…。

すう……。ふう……。(呼吸一回)

【演技もとに】

【囁き終了】

【位置…左耳側5センチ】

どう？ 終わった？

…随分沢山、出したわね。

【位置…正面5センチ】

あーあ。

私の太ももがご主人様の精液でぐちゃぐちゃになって、  
穢されてしまったわ。本当に気持ち悪い。

…けど。…そうね。

今の私、心にダメージを受けすぎて、動けそうにないわ。  
シャワーを浴びることすら、不可能ね。

【位置…次のセリフ、右耳側0センチへ移動しながら】

だから……。ご主人様。

【ここから囁き(有声音)】

嫌だけれど、このまま一緒に、ねてあげる。

ええ。このまま。

おちんちんと太ももが、体同士がぴったり密着した状態で、眠るの。

…お尻を揉まれたままなのも、すごく嫌だけど許してあげるわ。  
ご主人様には一刻も早く、  
女性への免疫を獲得してもらわないとだから。

はあ……。 (溜息)

しかし、  
これでもまだご主人様の女性への免疫が改善しなかったら、  
どうしようかしら。

その場合はもう、長期戦を見据えるしかないのでしょうね。  
毎日夜中にこうして、ご主人様の性処理をして、密着して眠って…。  
その繰り返しで少しずつ女の子慣れさせていくしか、  
方法は無さそうだわ。

…まったく。考えただけで嫌になるわよ。  
毎晩ご主人様の性処理オナホ抱き枕になるだなんて…。  
可愛そうなロリメイドの人権のためにも、  
ホント絶対、この一回で女性への耐性、獲得してくださいね。

……おやすみなさい。ご主人様。

トラック4…風邪

【演技…調子悪そうに（風邪を引いている）】

【位置…正面30センチ】

ん……。

ええ。起きてても大丈夫そうよ。

少し寝たら、調子が良くなったから…。

…そうね。生姜湯（しょうがゆ）なら、飲めると思う。  
…お願い。

SE…生姜湯を飲む

ふう…。（生姜湯を飲んで一息つく描写）  
情けないわ。風邪を引いてしまうなんて。

…ええ。反省してるわよ。

…ここ連日、  
ご主人様の布団に下着姿で潜り込んで性処理して、  
そのまま服も着ずに寝ていたモノね。  
…少し、やり過ぎたわ。

……ご主人様。

ご飯はもう、食べたかしら。

……そう。

結局私がメイドをしなくても、  
普通に生活出来てしまうのよね。ご主人様は。

そんなことない？

…どうかしら。

はあ……（溜息）。

…ん。

病院の予約、してあるの？

じゃあ保険証、持ってくるわね。

寒いから……。車、温めておいてもらえる？ ご主人様。

場転。

SE…車の中の音

【位置…左耳側50センチ】

風邪……。風邪か……。

いえ。

少し、ご主人様に引き取られる前のことを、思い出していたの。母と過ごしていた、あの頃を…。

…今思えば、当時は本当に窮屈だったわ。

母に毎日、お前は医者になるんだと言い聞かせられ。

随分過激な方法で、勉強を強制されて……。

…あの頃の私はね。

風邪を引いた時、出来るだけ長引くように願っていたの。

治って元気になったら、また母によって、

文字通り机に縛り付けられる日々が始まるから…。

それが嫌で、ずっと布団の中で、寝込んでいたくて……。

……でも。

今はあまり、この風邪が長引いて欲しいとは思わないわね。

風邪をひいて、寝込んで、辛いだけで。

早く治って日常に戻りたいって、そう思ってる。

【次のセリフ、優しいトーンで（少し微笑んでいる感じ）】

……。

ありがとうございますって、言ってるのよ？ ご主人様。

私を引き取ってくれて。

勉強も、休んでいいと言ってくれて。

それで……。

「私の本当の夢はメイドなの」って言ったら、  
こうしてメイドさんごっこを、させてくれて……。

【次の一言、優しいトーンにほんの少し涙をにじませて  
（少しです。分かるか分からないくらい）】

…ありがとうございます。ご主人様。

…らしくない？

別に、風邪を引いた時くらいは素直になるわよ。  
意地を張るのも、体力を使うもの。

…馬鹿ね。

私が普段から素直になったら、あなたは色々悩むでしょうに。  
女性耐性を付けるためのえっち……。

そういう免罪符が、私達には必要不可欠。…違う？

ええ。

だから素直になるのは、こういう時だけよ。  
治ったらまた、悪態ばかりついてあげるから。  
覚悟しておいてね。ご主人様。

……。ついたわね。病院。

まあ、ただの風邪でしようし。  
さっさと薬を貰って帰りましょう。

ご主人様、  
確か今日の夕方から、例の女性と打ち合わせでしよう？  
なら、帰ったら私の看病はいいから、その準備をして頂戴。

…だめよ。キャンセルなんて。  
大事な打ち合わせなのでしよう？

私の症状は大して重くないし、一切問題無いわ。  
安静にしてお留守番、しているから……。

ほら。

ひとまず病院、行きましょう？ ご主人様。

トラック5…ハニトラ

【位置…正面斜め右耳側30センチ】

……ん。

【位置…正面30センチ】

……お帰りなさい。ご主人様。

ええ。調子は大丈夫よ。

病院で貰った薬を飲んだら、相当良くなったし、熱も今は、37度くらいだから。

分かってるわ。それでも安静に、よね。

だからこうして、布団の上にいるんじゃない。

……それで。

どうだったの？ 打ち合わせは。

上手くいった？

……。

……どうしたの？ 黙りこくって……。

……。

……え。

ハニトラって……。どづいいうにゃ？

……そう。そう……なのね。

打ち合わせのつもりで行ったら、マルチの勧誘だった……。そんなことが……。

いや、分ってるわよ。

あなたがそういう時、ちゃんと縁を切れる人間だったこと。そういう心配はしてないわ。

…でも。

今日会ったその女性は、お世話になった人だったのでしょう？  
仲がいいって、私に話してくれたわよね。

【次のセリフは、

主人公が露骨に話題を変えようとしてきたので、  
少し呆れている描写です。】

……ん？

…ああ。そう。

経口補水液。買って来てくれたのね。  
ありがとう。

SE…袋を受け取る。

……。

……ねえ。ご主人様。

あなたは意地っ張りだから。

こういうことがあっても、

今みたいにすぐ話題を変えて、気丈に振舞おうとするけれど。

同じく意地っ張りな私には、よくわかるわ。

ご主人様が、傷ついていること。

人と……。

信じていた人と絶縁しなければならないというのは、  
辛いものなもの。

…だから。  
少しくらいその、愛想笑いを辞めて。  
感情を吐露してみてもいいのよ。

風邪を引いてはいるけれど、私はあなたのメイドだから。  
ご主人様の支えになるため、泣き言くらいいくらでも聞くわ。

【位置…正面15センチ】

ほら。

おいで？ ご主人様。

【位置…右耳側0センチ】

【ここから囁き（有声音）】

ぎゅーーう。

そう。辛かったのね。悲しかったのね。  
…やるせないわよね。全部。

…しばらく何もしたくない？

ええ。それでいいと思う。  
数日くらい仕事を休んで、  
ダラダラしたら良いんじゃないかしら。

……そうだ。じゃあご主人様。  
このまま私の風邪を、うつしてあげるわ。

どう？

そうすれば合法的に、お休みできるでしょう？  
家族に風邪をうつされましたって。

ダメじゃないわよ。一緒に寝込みましょう？

【囁き終了】

【位置…次のセリフ、正面5センチへ移動しながら】

ほら。口開けて。べろちゅーよ。

【キス20秒】

ふふ。おちんちん。大きくなった。

じゃあ……。そうね。

風邪を移すためのべろちゅーついでに、エッチなこともしましようか。ご主人様。

トラック6…ぶにぶにおまんこ素股

【位置…正面30センチ】

ん……。ふう……。(服を脱ぐ)

SE…脱衣音

これで一糸纏わぬ裸んぼ。

すっぽんぽんの小さな女の子よ。

大丈夫。裸になっても、ご主人様と密着すれば、体は冷えないわ。まあ、それで風邪を引いているからアレだけど。

エッチの間くらいは、問題無いはず。

あなた、早漏だしね。ふふっ。

【位置…次のセリフ…右耳側0センチへ移動しながら。】

ぎゅーう。

【ここから囁き(有声音)】

すうー…。ふうー…。

すうー…。ふうー…。(呼吸音2回)

……ごめんなさい。

本当は今から、あなたを慰める意味でも、

本番のセックスをしてあげたいのだけど……。

…ええ。

流石に今の体調で、処女をささげてのセックスは、  
無茶が過ぎるわね。

……だから。ご主人様。  
今日はセックスギリギリの事をしましょう。

…そう。

……こうやって、

私のぷにぷにおまんこを、おちんちんに押し付けながら。  
太ももでぎゅっ…と…。

んっ…。ふう…。

どうかしら。ご主人様。

ロリメイドのほかほかのおまたで、おちんちん挟まれるの。

パイパンつるつるのおまんこ、

柔らかい太もものお肉におちんちんが包まれて、幸せでしょう？

濡れてる？ …そうね。

ご主人様とエッチな事するときは、

いつもおまんこ、トロトロになってしまふの、私。

あなたの事大好きだから、仕方ないでしょ？

…じゃあ、動くわ。

このまま素股で、メイドのロリまんこを擦り付けて。

ご主人様のおちんちんに、ご奉仕するの。

いえ。動くのは私よ。

ご主人様に任せたら、私の体調に気を遣って、

あんまり激しくはしないでだろうし、消化不良になりかねないから。

こうやって…。

ご主人様に、裸んぼの体を擦り付けながら…。

ぷにぷにつるつるのおまたで、おちんちんを、

ずりずり…。ぐちゅぐちゅ…。

ずりずり……。ぐちゅぐちゅ……。

んっ……。ふう……。んっ……。はあ……。  
んっ……。あっ……。あっ……。ふう……。

…気持ちいい？ ご主人様。

愛液をだらだらとお漏らししている、私のおまたで、  
おちんちんシゴかれるの。

んっ……。ふう……。

ぷに穴ロリおまんこの、割れ目の感触、  
おちんちんでいっぱい感じて、興奮するでしょ？

はあ……。はあ……。んっ……。あっ……。  
はあ……。はあ……。あっ……。ふう……。

お尻も、揉んでいいのよ？ ご主人様

はあ……。ふう……。

私の体は全部、ご主人様のモノだから……。

んっ……。ふう……。

好きなだけ堪能して頂戴。

はあ……。はあ……。ふう……。んっ……。  
んっ……。あっ……。ふう……。はあ……。

【囁き終了】

【位置…次のセリフ、正面5センチへ移動しながら】

……あと。そうだわ。

…キス、しなきゃよね。

はあ……。はあ……。

ご主人様に、私の風邪を移さないものだもの。  
深いベロチューで、唾液をたくさん、交換しなきゃ……。

んっ……。ふう……。あっ……。はあ……。

…いえ。また少し、意地を張ってしまったわね。  
はあ……。ふう……。

本当は、大好きな人と、ただキスをしたいだけ。  
んっ……。ふう……。

だから……。

私のファーストキス。もらって？ ご主人様……。

【キス20秒

(最初浅めのキスで、段々深くなる感じで)】

んっ……。あっ……。ふう……。はあ……。  
あっ……。んっ……。はあ……。ふう……。

ん……？

そう。あなたも私の事。好きなの。  
んっ……。ふう……。はあ……。はあ……。

ふふ。まったく最低ね。

ロリコンで、変態で、悪い人だわ。ご主人様。  
はあ……。はあ……。ふう……。はあ……。

……いえ。冗談。

両想いで、とても嬉しいわよ。

はあ……。はあ……。

えっちなアプローチを、

無理やりし続けた甲斐が、あったと言うモノね……。

んっ……。ふう……。

じゃあ、もっと私に溺れてくれる？

んっ……。ふう……。

今日会った、最悪な女性の事なんか、忘れさせてあげるから……。

はあ……。はあ……。

ちっちゃなお口と、べろちゅーして。

ちっちゃなおまんこに、おちんちん擦り付けて……。

はあ……。ふう……。

ロリオナホメイドの気持ちよさで、満たされて頂戴。ご主人様……。

### 【深めのキス20秒】

ずりずり。ぬちゅぬちゅ。

ずりずり。ぐちゅぐちゅ。

未成熟なロリオまんこの割れ目で、おちんちんずりずり。

体温高めの、つるつるおまたオナホで、

おちんちんぬちゅぬちゅ……。

んっ……。ふう……。はあ……。ふう……。

あっ……。ふう……。んっ……。はあ……。

……。でも。実際のところ、ご主人様。

んっ……。ふう……。

私を恋人にしておくよ、とっってもお得意？

はあ……。はあ……。

そう。だってこれから、私が成長するにつれて、

ご主人様はいろんなおまんこを、楽しめるもの。

はあ……。ふう……。んっ……。ふう……。

今はまだ、つるつるのロリオまんこだけ。

んっ…。はあ…。

これから順番に、進級して、進学して、私は成長して行って…。

ふう…。はあ…。

ご主人様は、その全部の年齢のおまんこを、好きなだけ堪能できるの。

はあ…。ふう…。んっ…。ふう…。

…ね？ お得でしょう？

んっ…。ふう…。

成長式ロリオナホメイドのおまんこサブスク。登録するしか、ないわよね。

はあ…。はあ…。

変な売り込み？

ふふ。そうよ。売り込んでるの。

はあ…。はあ…。

マルチなんて言う、偽物の勧誘じゃなく。

本当にお得な、私との恋人関係への勧誘…。

んっ…。ふう…。

いつか、何歳のおまんこが一番好きか、教えてね。ご主人様…。

### 【深めのキス20秒】

ん…。そろそろ？

お射精するの？

はあ…。ふう…。

…じゃあ、射精の瞬間におまんこの入り口へ、

おちんちんの先っぽをあてがってあげるから。

ロリおまんこに密着して、びゅーびゅーどくどく、好きなだけお射精、するといいわ。

んっ…。ふう…。はぁ…。はぁ…。

好き。好き。好きよ。ご主人様。

大好き。大好き。いっぱい出してね。

んっ…。ふう…。

ええ。限界ね。出ちゃうわね。

精液がおちんちんから、今にもびゅーびゅー、吐き出しちゃうわね。伊って。伊って。出して。出して。

おちんちん頑張れ。おちんちん頑張れ。

おちんちんかっこいい。ご主人様だーいすき。

さーん。

にーい。

いち。

【次のセリフ、右耳側のセンチへ移動しながら】

はい。おまんこにおちんちん、あてがって…

【次の一行、囁き（無声音）】

お射精どーぞ、ご主人様。

びゅーびゅーびゅー…。

びゅるるー。びゅるるるー。

どく。どく。びゅく。びゅく。

ぴゅっ……。ぴゅっ……。ぴゅっ……。  
ビクン……。ビクン……。ビクン……。

【囁き、ここから有声音】

ん……。出し切った？  
ふふ。私のおまた、ご主人様の精液でぐちゃぐちゃだわ。  
嬉しい……。

【囁き終了】

【位置…次のセリフ、正面5センチへ移動しながら】

…じゃあ。エッチの余韻に浸りながら、  
しばらくべろちゅー、しましょうか。

ええ。風邪がすっかり、うつるように。  
ご主人様が、休めるように。

そして、大好きなご主人様を、私が堪能できるように。

いっぱいキスしましょう？ ご主人様。

【深めのキス20秒】（編集でフェードアウトさせます）

トラック7…メイドの本懐

【風邪は治っているので普段通りに】

【位置…正面斜め左耳側30センチ】

SE…体温計の音

どう？ ご主人様。

36度5分……。

ならご主人様も、今日からお仕事、再開かしら。

ええ。良い羽休めになったなら、良かったわ。

朝食、準備するわね。

【正面30センチ】

……でも。そうね。

…その前に。

……。

すうー……。ふうー……。(呼吸音1回)

【演技・ここから優しく微笑みながら透き通る声で】

【作品的には締めセリフになるので、カッコよく仕上げる】

頑張っ。ご主人様。

私はまだ小さくて、世間を知らないから。正しくは測れないけれど。

…でも。

仕事というのが辛かったり、苦しかったりする側面があるのは、  
なんとなくわかるわ。

そしてあなたの働く理由の多くが、私の為だと言うことも。

だから。頑張れ。

ご飯も。洗濯も掃除も。メイドである私が受け持つから。

それが私のやりたいことで、夢だから。

あなたはあなたとして。

今日からまた、カッコよく戦ってちょうだい。

……。

「いってらっしゃいませ。ご主人様。」

トラック8…生ハメ騎乗位えっち

【位置…正面斜め右耳側30センチ】

入るわよ。

【位置…正面30センチ】

こんばんは、ご主人様。

どう？ その後も体調に変化は無いかしら。

あまり無理すると、また風邪がぶり返してしまうし、今日の仕事は、早めに切り上げることがすすめるわ。

ええ。

…とはいえまあ、

好きでもない男性がまた体調を崩したところで、私はどうでもいいのだけどね。

……ん？

何かしら。

ええ。私、ご主人様のことなんか、まったく好きじゃないわよ。

あなたみたいな女性の扱いがなっていない男性なんて、好きになるわけ無いじゃない。

…まさかとは思うけれど、

風邪の最中や、病み上がりに行った私の言葉を、信じていたの？

馬鹿ね。あれは風邪による熱で頭がやられていた時の発言で、本心ではないわ。

私はご主人様の事はこれっぽっちも好きじゃないし、えっちなこと、いつも泣く泣くやっているの。

まったく。

相変わらず女の子の気持ちというモノが理解できていないのね。  
女性耐性ゼロで、情けなさすぎるわ。ご主人様。

はいはい。そんな戯れ言聞く気は無いわ。

ご主人様大好きなロリメイドなんて、

そんな幻想は、さっさと捨てること頂戴。

それで…。あれね。

どうやら今日も、やるしかないようね。

んっ…、しよ……。

SE…脱衣音

…見ての通りよ。  
服を脱いでいるの。

病み上がりだから、今日は大人しく普通のメイド服を着て、  
ただ業務をするだけにしようかと思っていたのだけど、

ご主人様の惨状を見たら、やはりそうも言ってられないと思って…。

仕方なくこれから、また女の子に慣れる訓練を、してあげるわ。

ほら。

これで裸んぼ。

お尻も、膨らみかけの小さなおっぱいも、  
つるつるのおまんこも丸見えよ。

ご主人様も早くズボンを脱いで、ベッドに寝たらどう？

あまり裸のまま待機させられると、  
私もまた、風邪をひいてしまうわ。

【位置…正面5センチ】

じゃあ。抱きつくわね。

【次のセリフ、左耳側0センチへ移動しながら】

ぎゅーう。

【ここから囁き（有声音）】

すうー…。ふうー…。（呼吸音1回）

はあ…。（溜息）

いつも通り、最悪の気分ね。  
好きでもない男に、こうして密着しなければならないだなんて。

しかも今回はさらに、これから女の子として一番大切なものを、  
このご主人様に捧げるのよ？  
考えただけで、本当にとても、悲しくなってくるわ。

ええそうよ。

これから処女を、あなたにあげるの。  
いつまでも女性への免疫がつかないあなたをどうにかするためには、  
もう本番えっちなしかないから。  
絶対にあげたくなかったけれど、  
泣く泣くあきらめ断腸の思いで、  
ぶに穴ロリおまんこの初めてを差し出すわ。

……。

【位置…次の「どうして」を、正面5センチに移動しながら】

どうして、そんな呆れたような顔をしているの？  
私があんなに可哀想な状態なのだから、  
少しは申し訳なさそうにして欲しいものね。まったく。  
まあいいわ。  
さっさと始めましょう。

【位置…次のセリフ、正面30センチへ遠ざかりながら】

ほら。まずはおまんこ、見せてあげる。  
お股を広げて…。  
くぱあ…。

見える？  
私のつるつるでピンク色の、小さなおまんこ。  
年端も行かない女の子の、未成熟処女おまんこよ。  
この、ボールペンすら入らなそうな狭すぎる穴を、  
今からご主人様の大きな大人おちんちんで、  
無理矢理みちみち押し広げて貫くの。  
楽しみかしら。

おちんちんビクビクさせて、最低ね。  
私は憂鬱極まりないけれど、それなら勝手に楽しむといいわ。

【位置…次のセリフ、正面5センチへ近づきながら】

じゃあ…。入れるわね。  
可哀想なロリメイドのおまんこ。  
陵辱して下さい。ご主人様。

【ここから、苦戦しながら挿入】

【次の最後の「んあっ……！」で、左耳側5センチへ】

んっ……。あっ……。あふっ……。んあっ……！

はあ……。はあ……。まだ、半分……。

根本まで、いれるわ……。

無理矢理、体重をかけて……。

んっ……。あっ……んはあっ……！！（挿入）

（←この一行は、おちんちんを入れた衝撃で少し言葉を失う描写）  
いっ……。あっ……。

はあ……。はあ……。はあ……。はあ……。

ふう……。ふう……。はあ……。はあ……。

【位置…左耳側0センチ】

【ここから囁き（無声音）】

…入ったわ。

どう？ いたいけなメイド少女の、初めてを奪った感想は。

つつるキツキツのロリおまんこ、気持ちいい？

ん。いれただけで出そうなの？

相変わらずしようもないおちんちんね。

仕方ないから、おちんちんがキツキツおまんこに慣れるまで、  
動かずに休憩させてあげるわ。

すうー……。ふうー……。 （呼吸音1回）

【耳舐め20秒】

…ねえ。ご主人様。

私、大事にしていた処女も、こうして奪われてしまったし。色々観念して、これからしばらく、ご主人様のオナホとして、生活するわ。

…ええ。

今まで通りお尻丸出しでメイドの業務をして、もしご主人様のおちんちんが大きくなってしまったら、その場ですぐおまんこを提供する。そういう、あなたのフリーオナホメイドに、なってあげる。

だから不本意だけど、これからご主人様がムラムラしたら、いつでも私を襲って、おまんこ使ってね。

いえ。空調をしっかりとすれば、風邪はひかないわよ。とにかく、それくらいしないとご主人様は、いつまで経っても女性耐性がつかないから。私のつるつるロリおまんこに、おちんちんハメまくり生活をして頂戴。

はあ…。

説明していて悲しくなってきたわ。

これから私は毎日、好きでもない男におまんこを提供して、犯されまくるのね。小さなおまんこがご主人様のおちんちんの形に拡張されて…。どんだんハメごちの良いロリオナホへと、体が変わって行って…。想像するだけで、とても惨めな気持ちになるわよ。ホント。

従順で使い勝手のいいロリオナホ。獲得おめでとう。ご主人様。

【耳舐め20秒】

…そろそろ。動くわよ。

これからご主人様のオナホになる、可哀想なおまんこで、おちんちん扱いてあげる。

【ここから、息荒めで】

ほら。小さなお尻を、上下に振って……。

んっ…。あっ…。ふう…。はぁ…。  
あっ…。うっ…。はぁ…。ふう…。

気持ちいいでしょう？

んっ…。ふう…。  
体温高めのキツキツおまんこでの、密着騎乗位は。  
あっ…。はぁ…。

ご主人様に処女を捧げるしかなかった、  
いたいけで可哀そうな女の子に、  
んっ…。あっ…。はぁ…。  
こうして腰を振らせてご奉仕させる、最低の快感…。

んっ…。あっ…。  
ご主人様は、大好きなものね。

んっ…。あっ…。はぁ…。ふう…。  
んっ…。ふう…。あっ…。はぁ…。

それにしても、好きでもない人とのセックスって。  
んっ…。ふう…。

全然、気持ち良くないわね…。  
あっ…。はぁ…。ふう…。んっ…。  
動いているから、息が上がって、吐息が漏れるけど……。  
んっ…。あっ…。はぁ…。ふう…。

本当にちっとも、おまんこ感じないわ。  
んっ、あふっ…。ふう…。はあ…。  
あっ…。んっ…。ふう…。ふう…。  
おちんちん、気持ち良くない。  
んっ…。ふう…。  
ご主人様のおちんちん。  
あっ…。んっ…。  
気持ちよく…。んあっ…。んっ…。  
気持ちよく、ない。

【囁き終了】

【次の喘ぎで正面5センチへ移動】

はあ…。はあ…。んっ…。あっ…。  
んあっ。あっ…。ふう…。はあ…。  
…セックス、つまらないわ。ご主人様…。

【深めのキス20秒】

んっ…。あっ…。はあ…。ふう…。  
あっ…。んっ…。あっ…。はあ…。  
ご主人様、みて。んっ…。はあ…。

【次のセリフ、正面15センチへ遠ざかりながら】

こうやって、少し体を離せば、  
んっ…。ふう…。  
おまんことおちんちんの結合部、よく見えるでしょう？

あっ…。はあ…。ふう…。んっ…。  
つるつるのおまんこに、ご主人様のおちんちんが、  
ぬちゅ、ぬちゅ、ぐちゅ、ぐちゅ。って、  
いっぱい出し入れされてるわ…。  
あっ…。んっ…。はあ…。あっ…。  
あっ…。んっ…。はあ…。はあ…。

私のおまんこ、すごく広がってるわね。  
んっ…。あっ…。

こんな、小さすぎるロリおまんこに、  
ご主人様の、大人おちんちんを、啜え込まされて…。  
あっ…。ふう…。

ぐばあー、って、広がっちゃってるの。

あっ…。はあ…。ふう…。んっ…。

こんな状態で、おちんちん出し入れ、し続けたら、  
んっ…。はあ…。

私のおまんこ、どんどん拡張、されちゃうわ。

はあ…。はあ…。んっ…。はあ…。

つるつるおまんこにしては、明らかに広がった…。

んっ…。ふう…。

ご主人様の、大人おちんちんのためのおまんこに、  
なってしまうの。

はあ…。はあ…。んっ…。ふう…。

でも、これからは私、ご主人様のオナホに、なるのだから。  
あっ…。はあ…。

早めにおちんちんの大きさに、広げてもらった方が…。

あっ…。んっ…。はあ…。ふう…。

楽しいかも…。しないわね。

はあ…。はあ…。まあ、最悪だけど…。

【位置…次の喘ぎで左耳側0センチへ移動】

【ここから囁き（有声音）】

あっ…。んっ…。はあ…。はあ…。  
んっ…。ふう…。はあ…。はあ…。

ほら。いっぱい広げて？

私のロリおまんこ、ご主人様のおちんちんで、拡張して？  
あっ…。はあ…。ふう…。んっ…。

ロリメイドのつるつるおまたに、  
ぽっかり空いた自分のおちんちん専用のおまんこオナホ、作るのよ。  
ご主人様…。  
んっ…。はあ…。ふう…。んっ…。

【囁き終了】

【位置・次の喘ぎで正面5センチへ移動】

あっ…。はあ…。んっ…。ふう…。

あーあ。おちんちんビクビク跳ねさせて。  
んっ…。ふう…。

…相変わらず、最低すぎるわね。気持ち悪い…。

【深めのキス20秒】

ん？ そろそろ？  
んっ…。はあ…。  
精液出そうなの？ ご主人様。

あっ…。ふう…。んっ…。はあ…。

……そう。

別にいいわよ。中出しで。

あっ…。ふう…。

まだ私、赤ちゃんを作れるような体に、なってないから…。

んっ…。あっ…。

未成熟な、ロリおまんこ。

好きなだけ精液で、満たせばいいわ。

んっ…。あっ…。はあ…。ふう…。

ん？ なぁに？

ラブラブ…？ ラブラブしたいの？

んっ…。はあ…。あっ…。ふう…。

本当、よくもまあ、そんな要求できるわね。

あっ…。はあ…。あっ…。んっ…。

私、あなたのことは好きじゃないと、

んっ…。ふう…。

勘違いしないでって、

何度も、言っているのだけ…。

あっ…。はあ…。ふう…。んっ…。

はいはい。ラブラブすればいいのね。

んっ…。はあ…。

好きじゃないけど、演技でいいなら、やってあげるわ。

【次の二行で、いったんピストンストップ】

んっ…。あっ…。はあ…。ふう…。

はあ……。はあ……。はあ……。はあ……。

【ここから、甘く甘えるような感じで】

えへっ。えへへっ。  
すき。好きよ。ご主人様大好き。  
いいわ。ラブラブしましょう？  
ラブラブして、ベロチューして、いっぱい中出し、して頂戴。  
ほら。ちゅーう。

【ピストン再開】

【深めのキス、喘ぎながら。20秒】

んっ。はあ。んっ。ふう。  
あっ。はあ。んっ。あっ。

気持ちいい？

私のキツキツロリおまんこ、気持ちいい？  
んっ……。はあ……。

ええ。いっぱい出してね。ご主人様。

あっ……。ふう……。

小さなおまんこに、  
沢山沢山精液吐き出して、  
あっ……。ふう……。んっ、あっ……。  
ロリメイドの子宮を、たぶたぶに満たすといいわ。

あっ。ふう……。んっ……。あっ。

あっ……。んっ。ふう。んっ……。  
ええ。イク時は一緒よ。  
好き同士だもの。

ラブラブして、同時に絶頂、したいものね。  
んっ……。はあ。あっ。ふう……。

ほら。一緒に、一緒にイキましょう？  
もう私、限界だから……。

イク。イク。イク。イク。

ご主人様。ご主人様。  
ダメ、私。もうダメ。

イっ……。くっ……くっ……！！（絶頂）

んっ……。あっ……。

はあ……。はあ……。はあ……。はあ……。

……。キス……。

ベロチューしなきゃ……。

気持ちいい……。ご主人様……。

### 【深めのキス20秒】

### 【演技、元の不機嫌な感じで】

ふう……。随分出したわね。

いいえ。イッたのは演技だから、

「おまんこが射精おちんちんを締め付けてきた」なんていうのは、  
あなたの幻想よ。

はあ……。全く、最悪だわ。

このあとはこのまま、

おまんこがご主人様の精液で満たされた状態で、  
メイドの業務をしなければならぬなんて……。

しかも私は、  
これからしばらくご主人様のオナホになる訳だから、  
毎日こんな日が続く訳でしょう？  
ホント、自分の運のなさを呪うしかないわね。こんなの。  
なあに？

ああそう。  
私は幸せじゃないけれど、ご主人様が幸せなら何よりだわ。  
じゃあその、多幸福感を感じやすいように、嫌だけどしばらく、  
くつついていてあげる。

【次のセリフ、左耳側のセンチへ移動しながら】

ぎゅーう。

【ここから囁き（有声音）】

すうー…。ふうー…。

すうー…。ふうー…。  
（呼吸音2回）

んっ…。

…お尻、揉まないでくれるかしら。  
ホント、全く好きになれないわね。ご主人様のことなんて。

了